

伊豆半島ジオ検定2012

3級 解答・解説

No.	正解	解説
Q1	B	「ジオ」はギリシア語で「地球・大地」などの意味を表す。ジオパークを直訳すれば「大地の公園」。地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園といえる。
Q2	B	日本は糸魚川など、中国は泰山・香港など、ドイツはブルカンアイフェルなど各国複数の世界ジオパークがあるが、アメリカにはひとつも存在しない。2012年9月21日現在、27か国92地域が世界ジオパークとなっている。
Q3	D	世界ジオパークネットワーク(GGN)は、2004年2月、UNESCO(国際連合教育科学文化機関)の支援によりヨーロッパと中国のジオパークを立ち上げメンバーとして設立された。
Q4	B	ジオパークでは、各国の法規制等に従い大地の資産を保全するとともに、その資産を通じて地球科学の知識や環境・防災の概念等を社会に伝える教育を重視する。地質資源を守りながら新たな収入の道としてジオツーリズムを推進する一方、化石標本の販売など持続性のないあらゆる地学標本類の売買は、積極的に阻止する必要がある。
Q5	D	国内の世界ジオパークは洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸の5か所。
Q6	D	温泉は火山の高い地熱によって暖められた地下水が湧き出すもの。火山の地下では地熱や熱水によってさまざまな鉱物が作られる。また、火山噴火により起きる溶岩流や火砕流・土石流は谷や険しい地形、海を埋め立て、広くなだらかな土地を生み出す。
Q7	A	伊豆半島はかつてはるか南の海で発生した海底火山や火山島で、フィリピン海プレートとともに北上し、本州に衝突した。本州で唯一フィリピン海プレート上に位置する特異な半島である。
Q8	C	約2000万年前には現在の硫黄島付近の緯度に位置した海底火山や火山島であったとみられている。
Q9	A	丹沢山地は伊豆半島の先輩にあたる。丹沢も元々南洋の海底火山であり、伊豆に先立ち本州に衝突して一体化したが、伊豆の衝突に伴い、隆起した。
Q10	B	富士山や箱根山、達磨山など、ほぼ同じ場所から休止期間をはさみつつ噴火を繰り返す火山を複成火山といい、複数回の噴火によって火山噴出物が積み重なってできた火山体が成層火山である。日本には富士山をはじめ、複成火山が多い。単成火山は、次に噴火する際は全く別の火口を形成することになる比較的小型の火山。なお、カルデラは火山活動で形作られた大きな窪地のことをいう。
Q11	C	伊豆半島はかつてはるか南にあった海底火山や火山島だった。本州の下に沈み込んでいるフィリピン海プレートとともに北上した伊豆は、本州との衝突とともに隆起・半島化した。
Q12	C	沼津市、三島市、熱海市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町の7市6町、計13市町が正解。
Q13	B	特異な成り立ちと地学的な現状から、伊豆半島を大きな贈りものにとらえ、「南から来た火山の贈りもの」を伊豆半島ジオパーク構想のテーマとしている。
Q14	C	伊豆半島南部にはかつての海底火山の噴出物が広く分布している。下田市の須崎半島に位置する恵比須島では、白い縞々の美しい地層(火山から噴出した軽石や火山灰が海底に降り積もったもの)や角ばった岩を多く含む地層(海底を流れた土石流)などがみられます。
Q15	D	「伊豆は詩の国であると、世の人はいう。伊豆は日本歴史の縮図であると、或る歴史家という。伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。伊豆半島全体が一つの大きい公園である」(「伊豆序説」(川端康成)日本地理体系第6巻)
Q16	C	伊豆市の下白岩では、県指定天然記念物に指定されている直径数ミリの凸レンズ状をした大型有孔虫化石レピドサイクリナを観察することができる。この化石は、この地層がたまった場所が、約1100万年前の南洋であることを示す証拠となっている。
Q17	D	伊豆半島で最も古い時代の地層「仁科層群」は、西伊豆町の仁科川の中流から下流の谷沿いに分布。西伊豆町一色の林道沿いの崖にみられる枕状溶岩は約2000万年前のものである。海底を流れた粘り気の少ない溶岩は、表面張力と海水による急冷作用でチューブ状に流れる。形はソーセージ状だが、断面が枕のような形でもあるため枕状溶岩と呼ばれる。

No.	正解	解説
Q18	B	西伊豆や下田の海岸で、一面に広がる白っぽい地層は、海底火山の噴出した火山灰や軽石が何重にも降り積もったものである。伊豆南・西部にはこのような地層が多数見られる。
Q19	B	烏帽子山(松崎町)、城山(伊豆の国市)は、映画『未知との遭遇』に登場する奇岩デビルズタワー(アメリカ)と同様、「火山岩頸(かざんがんけい)」と呼ばれるものである。火山岩頸は、火山の直下で冷え固まったマグマが、後の浸食によって洗い出されたものである。なお、大室山(伊東市)はスコリア丘である。
Q20	A	伊豆石のかつての採石場である石丁場は伊豆半島の海岸や川沿いを中心に多数存在するが、中には危険な場所も多い。松崎町道部の国道136号線沿いにある室岩洞は、江戸時代から戦後まで続いた石丁場で、一般の観光客でも見学できるようになっている。
Q21	C	南伊豆町の奥石廊コウスゲ公園の足元に広がる小さな高原は「池の原」と呼ばれ、伊豆が半島化した後の約40万年前に噴出した南崎火山によって作られた。目の前には伊豆がまだ海底火山や火山島だったころの火山灰等でできた絶壁や美しい海が絶景となって広がる。
Q22	B	三筋山から南東に広がる緩やかな斜面は、細野高原と呼ばれる。かつての大型陸上火山・天城山の南東斜面が浸食され残ったもので、秋にはススキが一面に広がる。古くからの山焼きにより森林の育成が抑えられているため、火山斜面の地形をよく観察できる。
Q23	A	伊豆最大の金山である土肥金山は、江戸時代に大久保長安が新技術を導入したことで隆盛を極め、街も栄えた。その後衰退したが、明治時代に再び復興。大正時代には佐渡に次ぐ本邦第二位の金山となった。現在は江戸時代の採鉱を再現した坑道を見学できる観光施設。
Q24	B	天城山は連山であり、その最高峰の万三郎岳は1,406メートル(1,405メートルとも)である。伊豆が陸化した後の80万～20万年前の噴火で作られた天城山は、元の山体のかなりの部分が浸食で失われてしまった。かつての山頂は万三郎岳より南にあり、標高も現在より高かった。
Q25	B	熱海市にある初島は、かつて海底火山や火山島だった伊豆半島や、活動中の火山島である伊豆諸島と異なり、浸食され海底に沈んだ火山島が地震により隆起して海上に姿を現した海成段丘と呼ばれるものである。
Q26	B	陸化した後の伊豆で生じた火山活動は、約15万年前を境として二つに分けられる。15万年前より古い大型火山(複成火山)の活動と、それ以降の小型火山(単成火山)の活動である。多賀火山は前者に属し、大室山、一碧湖、鉢ノ山は後者(伊豆東部火山群)である。
Q27	D	伊豆東部火山群のマグマは、現在でも時おり活動を続け、伊豆東方沖で群発地震を起こす。最も新しい噴火活動は1989年の伊東沖の手石海丘火山である。
Q28	A	マグマが冷え固まり収縮すると柱状の割れ目、柱状節理が誕生する。河津七滝では柱状節理をよく観察することができるが、エビ滝だけには見られない。
Q29	A	伊豆東部火山群に属する大室山は、約4000年前に噴火し、3億8千万トンという大量の溶岩を流出させた。谷を埋めた溶岩はなだらかな伊豆高原を生み、さらに相模灘まで流れ込んだ溶岩は城ヶ崎海岸という美しい海岸線を生み出した。
Q30	B	県指定天然記念物にも指定されているシラヌタの池は、天城山の山腹で起きた地すべりによって谷がせきとめられてできた堰止湖。モリアオガエルなど貴重な生物が生息している。
Q31	C	富士山は約1万年前にも噴火し(新富士火山)、その溶岩は三島市周辺にまで達しています(三島溶岩流)。三島駅前の楽寿園の中を散歩すると、縄状溶岩など様々な表情の溶岩を見ることができる。
Q32	A	伊豆市筏場などの天城地方を中心に、清らかな湧水を利用した最高級のわさびの栽培が行われている。なお、三島市は、富士山からの湧水にうなぎを2～3日打たせ、特有の臭みや余分な脂を落とすことでおいしいうなぎを提供してくれるうなぎ屋で有名である。
Q33	A	伊東市川奈の海蔵寺の石段には、1923年の関東大震災の際の津波到達点が石碑として記録されている(下から5段目)。この他1854年の安政の津波は下から3段目、1703年の元禄の大津波は上から4段目まで到達したという記録が残る。
Q34	C	火雷神社に行くと、丹那断層公園と同様、1930年11月26日に起きた北伊豆地震の地震断層のずれがよく保存されている。石段と鳥居の間に断層が通っており、1メートルあまりのずれがはっきりと確認できる。地震の揺れにより崩れた鳥居も保存されている。
Q35	D	狩野川は太平洋側に河口をもつ河川としては唯一、本川が北流することが特徴。陸化した後の伊豆で成長した天城山をはじめとする多くの複成火山が、伊豆半島に「J」の字を描くようにそびえるため、天城から流れ出す狩野川は、途中の支川を集めながら北流することになった。黄瀬川の扇状地におされて進路を西に変えながら、柿田川、黄瀬川などを合流して駿河湾へ流れ込む。

No.	正解	解説
Q36	B	二人の子とともに熱海を訪れ7日間逗留したという記録や京都で療養中の吉川広家の見舞いにわざわざ熱海からお湯を運ばせたというほどに好んでいたという。なお、伊東の湯(和田湯の源泉)は、三代将軍家光の療養のために江戸へ運ばれ、苦しむ家光を快癒させたことで知られる。土肥温泉は金山開発の坑口から湧出したのがはじまり。修善寺温泉は弘法大師(空海)が独鈷で岩を砕き湯を湧出させたという開湯伝説が残る。
Q37	D	天城の太郎杉は県指定の天然記念物である。
Q38	C	南北朝時代の武将・畠山国清は鎌倉公方足利基氏を補佐し、一時権勢を振るったが、次第に苦しい立場に追い込まれ失脚。基氏に反旗を翻した国清は、弟の義深・義熙とともに伊豆で挙兵。修善寺城、三津城とともに1361年に現在の伊豆の国市の城山に金山城を築いたと云われる(異説あり)。しかし翌年には三城は相次いで攻め落とされ、畠山国清の乱は収束した。なお、清水康英は戦国時代の武将で、後北条氏の家臣。下田城主。
Q39	B	日蓮上人四大法難の一つ「伊豆法難」の地が伊東である。鎌倉の由比ヶ浜より船で連れてこられた日蓮上人は、俎岩と呼ばれる岩に置き去りにされるが、漁師に助けられ、しばらく川奈に匿われた後、現在の佛現寺の辺りにあった毘沙門堂にて約3年過ごした。なお、四大法難の一つ「佐渡法難」の地、佐渡市も現在、ジオパークを目指して活動している。
Q40	D	1854年3月末、吉田松陰とその弟子である金子重輔はアメリカへの密航を企て、下田市柿崎の弁天島から船を漕ぎだし、黒船ポーハタン号へたどり着くが、ペリー提督に拒否された。自首した松陰は拘禁され、萩で幽閉されるが、出獄した後は松下村塾で高杉晋作、伊藤博文などを教育することになる。弁天島は、浅い海の時代の火山灰が降り積もった様子や波や潮流により作り出された斜交層理、生痕化石なども見られる貴重な場所である。
Q41	C	下田で大破したディアナ号は自力航行不能となり、修理のため戸田へ曳航される途中に沈没。幸い乗員は全員無事だった。沈没を知り、戸田の船大工と住民は協力して洋式船を建造。感謝したプチャーチンはこの船を「ヘダ号」と名付け、47人とともに帰国した。戸田の御浜岬の先端に位置する戸田造船郷土資料博物館では、ヘダ号の資料や日露友好の歴史を紹介している。
Q42	D	沼津港の港八十三番地にある沼津港深海水族館は、駿河湾をベースに、世界でも珍しい冷凍個体を含む5体のシーラカンスなど、深海の生物を展示。駿河湾はフィリピン海プレートの沈み込みにより生み出された日本一深い湾である。
Q43	B	下田の街で育った4人の中学生の少女たちの物語。伊豆石を使った蔵の壁など独特の味わいがあるペリーロードなどの下田の街並みや下田富士、寝姿山といった下田港ジオサイトの見どころ、吉佐美・牛牛ジオサイトの竜宮窟やサンドスキー場も登場する。
Q44	C	原作は、文豪・井上靖が、自身の人生、家族との実話をもとに綴った自伝的小説「わが母の記〜花の下・月の光・雪の面〜」。伊豆市の滑沢溪谷が登場する。
Q45	C	大正時代から始まった温泉熱を利用したメロン栽培は南伊豆町の下賀茂が発祥の地。地元には白飴にメロンエキスを混ぜ込んだ「メロン最中」をはじめとしたメロンスイーツも。
Q46	C	プレートの活動などの結果、沖に深い海があり潮流により様々な魚種が行き交う伊東の海には様々な魚が集まる。いとう漁協直営「波魚波(はとば)」のジオ丼は、伊東市の沖に設置した定置網でその朝獲れた鮮魚だけを使用。毎日中身が変わる限定メニューだ。
Q47	D	南伊豆町在住の認定ジオガイドと地元デザイナーが起ち上げたお菓子のブランドが「ジオガシ旅行団」。西伊豆町一色の枕状溶岩、下田市恵比須島の斜交層理、南伊豆町弓ヶ浜の砂嘴など、地層や地形をモチーフにした独特のお菓子を製作している。地元のお土産品や観光施設などのほか、東京渋谷のヒカリ工房「d47 design travel store」でも入手可。
Q48	D	いずれも伊豆半島の周囲で獲れるが、アジだけは水深200m以深ではない。
Q49	B	伊豆急行の8000系車両を利用した「フォトレイン」(3両編成)。2012年3月末から昨年の「伊豆半島ジオ! フォトコンテスト」の作品が車内展示されている(9月までの予定)。
Q50	B	北部の沼津市、三島市で約30万人、それ以外の5市6町で約30万人。